

Peace Now! 21

#7 平和憲章エッセイ2006 結果発表!

今回は、4月から6月にかけて募集した『名古屋大学平和憲章エッセイ2006』の結果発表をします。今年は10作品の応募があり、審査の結果、入選1作品と佳作4作品が選ばれました。入選作品を掲載しますので、この機会に、改めて平和憲章を読み返してみてもいいでしょうか。平和憲章は<http://www.nucoop.jp/committee/peace.html>で見ることが出来ます。

- 入選(1名) 『名古屋大学平和憲章を読んで』(楊韜:国際言語文化研究科)
- 佳作(4名) 『千羽鶴に願いを込めて』(久保田祐佳:法科大学院2年)
- 『「伝え、残し」未来を築く』(村瀬真継:国際言語文化研究科)
- 『遠くに住む「姉弟」からの便りを見て』(寺田知子:法学部2年)
- 『中等教育における平和教育について』(高田浩史:教育学部)

名古屋大学平和憲章を読んで

名古屋大学大学院 国際言語文化研究科 楊韜

初めて名古屋大学平和憲章のことを知ったのは、2004年の秋でした。進学先の大学院を探す時の発見でした。大学の環境や学風はもちろん、最終的に名古屋大学へ進学しようと決めた諸理由の一つは、平和憲章の中にある「大学は、政治的権力や世俗的権威から独立して、人類の立場において学問に専心し、人間の精神と英知をになうことによってこそ、最高の学府をもってみずからを任じることができよう」という言葉が心に刻んだことでした。

日本に来て5年が経ちました。この5年間、小泉首相の靖国神社参拝、自衛隊の海外派遣、自民党の新憲法草案や教育基本法の改正案などの提出、平和と戦争にめぐる議論もたくさん耳にしました。しかし、戦後60年が過ぎた今、戦争を知らない世代が社会の中心となる同時に、歴史が繰り返される危険性をつくづく感じます。外国人の立場からだけでなく、日本で教育を受けている一学生の立場からも、日本は絶対に前者の轍を踏まないでほしいと願っています。

幸いに、日本では政府関係者から一般民間人までたくさんの人々が同じ想いを持って、戦争を忘れずに、平和を大切にしようと努力しています。身近な例を見てみましょう。名古屋市瑞穂区住民ら約二百二十人で作った「みずほ九条の会」は、毎月九日に街頭宣伝や署名活動を展開していることを通じて、憲法九条を守り抜くことを実践しています(2006年5月8日の中日新聞に参照)。他に、先日行った名古屋大祭も、映画を上映したり、講演会を開いたりして様々なイベントを開催して、名古屋大学平和憲章

を紹介して、平和の大切さを呼び掛けていました。

「九条の会」に賛同する東京福祉大学教授の足立自朗氏は「戦後民主主義の第一世代(と思っている)人間にとって、九条は日本が世界に誇り得るほとんど唯一のもので」と述べていた(「九条の会」ホームページに参照)。そして、名古屋大学の一員として、名古屋大学平和憲章の存在を知って、広く宣伝する義務があると思います。即ち、もっと多くの名古屋人に平和憲章が宝物だという誇りを持ってほしい。

6月下旬にイギリスから戻って来たばかりです。ロンドンにある大英帝国戦争博物館へ見学した時、広島に投下した原子爆弾の模型と被爆直後の広島市の様子を写した写真を見て、改めて戦争の残酷と無情に心を碎かれました。偶然にも、博物館から出て、一人のイギリス人の老兵士と出会った。少し戦争についての会話を交わすと、「ノーウオー! ネバーアゲン! (NO-WAR! NEVER AGAIN!)」と返してきました。

名古屋大学平和憲章の中で、大学は「人間の尊厳が保障される平和で豊かな社会の建設」のためにも「他大学、・・・地域社会、国際社会など社会を構成する広範な分野との有効な協力が必要である」と書かれています。この目標を達成するためにも、これからさらに力を入れて、名大と周辺地域の一般住民と連携して名古屋大学平和憲章の存在意義を強調する上、「平和とは何か、戦争とは何かを明らかにし・・・平和な未来を建設する方途をみいだすよう努める」ことに期待したいと思っています。

◆お知らせ◆

7月に生協の購買や食堂で集めた折り鶴は、原爆投下の日にあわせて広島へ届けました。集まった折り鶴の数は、全部で550羽でした。ご協力ありがとうございました。詳しくは『学生委員会だより』を参照してください。

文責:ハムハム